

水響 水星交響樂團
第64回定期演奏会



2022.12.25 ① 14:00 開演

13:30より オルガンプレコンサート (大木 麻理)

すみだトリフォニーホール 大ホール



水星交響楽団

第64回定期演奏会



指揮 齊藤 栄一

13:30より オルガンプレコンサート(大木 麻理)



ルロイ・アンダーソン クリスマス・フェスティバル (約10分)

——— 休憩 (15分) ———



ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー バレエ音楽「くるみ割り人形」Op. 71

序曲(約3分半)

第1幕(約45分)

1. 情景(クリスマスツリー) 2. 行進曲
3. 子供たちの小ギャロップと両親の登場
4. 踊りの情景(ドロッセルマイヤーの贈り物)
5. 情景とおじいさんの踊り 6. 情景(招待客の帰宅、そして夜)
7. 情景(くるみ割り人形とねずみの王様の戦い) 8. 情景(松林の踊り)
9. 雪片のワルツ

——— 休憩 (15分) ———

第2幕(約35分)

10. 情景(お菓子の国の魔法の城) 11. 情景(クララと王子の登場)
12. デイヴェルティスマン(登場人物たちの踊り)
 1. チョコレート(スペインの踊り) 2. コーヒー(アラビアの踊り)
 3. お茶(中国の踊り) 4. トレパーク(ロシアの踊り)
 5. 葦笛(フランスの踊り) 6. ジゴーニュ小母さんと道化たち
13. 花のワルツ
14. 金平糖の精と王子のパ・ド・ドウ

アダージョ ヴァリアシオン I (タランテラ)

ヴァリアシオン II (金平糖の精の踊り) コーダ
15. 終幕のワルツとアポテオーズ

[新型コロナウイルス感染拡大防止感染防止対策のご協力とお願い]

- 発熱、風邪のような症状、体調にご不安がある場合は、ご入場の自粛をお願いいたします。
- 入場時に非接触型検温機にて体温を計測させていただきます。平熱より高い熱があるお客さまには入場いただけませんので、予めご了承ください。
- 入場時の消毒用アルコールによる手指の消毒、咳エチケットやこまめな手洗いにご協力をお願いいたします。
- 入場時より、施設内では適切なマスク(不織布マスクを推奨する)を鼻にフィットさせ正しく着用し、鑑賞中およびロビー、ホワイエでの休憩時でも着用してください。
場内における会話や終演時のブラボー等の掛け声はお控えください。
- バーコーナーをご利用の際は、黙食にご協力ください。
- ロビーのソファ、ごみ箱を一部撤去しておりますのでバーコーナー以外での飲食はお控えいただき、ごみはお持ち帰りくださいますようお願いいたします。
- 出演者への花束・プレゼント受付ならびに終演後の出演者との面会は、極力お控えください。また楽屋への訪問や出待ちについても同様にお控えください。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、お客様の氏名・連絡先を、必要に応じて保健所等の公的機関へ提供させていただく場合がございます。



ごあいさつ

お忙しいところ、私たちの演奏会にご来場いただき、ありがとうございます。

クリスマス。今日は特別な日。

皆さまもサンタクロースからたくさんプレゼントをいただいたと思いますが、私たちからは音楽でプレゼントをお贈りします。

大木麻理さんのオルガンによるコンサートにはじまり、クリスマスにちなんだ名曲の詰め合わせ「クリスマス・フェスティバル」。そして、「この日はこれでしょ！」のくるみ割り人形です。

こどもたちの歌声に包まれながら、水本紗恵子さんによる素敵な映像もあわせてご堪能ください。

いろいろと落ち着かないこともつづく世の中ですが、今日だけは心安らかに。それでは、ごゆっくりお聴きください。



水星交響楽団 運営委員長 植松 隆治

水星交響楽団

1984年に一橋大学管弦楽団の若手OB・OGを中心に結成。年2回ペースで定期演奏会を開催。マーラーをはじめとした大編成の曲に取り組む一方、一般的には意外に演奏されない佳曲も積極的にとりあげており、特徴あるプログラミングは好評を得ている。2019年の第60回定期演奏会のマーラー交響曲第8番「千人の交響曲」でマーラーの交響曲演奏を完成させた（未完の第10番を除く）。楽団の名前の由来は、一橋大学のシンボルである「マーキュリー」やセロ弾きのゴージュの「金星音楽団」から来ている等いろいろ考えられる。



齊藤 栄一

指揮・字幕台本

京都大学にて音楽学を、国際基督教大学大学院にて美術史学を研究。この間、指揮法を尾高忠明、田中一嘉、円光寺雅彦の各氏に師事。1981年には京都大学交響楽団と2週間に渡り、ドイツ、オーストリアにて演奏旅行を行い、ザルツブルグ音楽祭などにて指揮。82年には関西二期会室内オペラ・シリーズ第9回公演、ブリテン作曲「ねじの回転」（関西初演）の副指揮者を務める。84年に水星交響楽団の常任指揮者に就任。水星交響楽団、オルフ祝祭合唱団との共催で、佐多達枝振り付けのバレエ「カルミナ・ブラーナ」（95年、東京文化会館）、

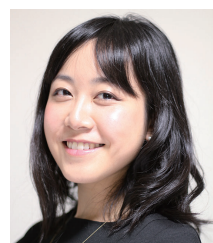
「ダフニスとクロエ」（99年、新宿文化センター）を指揮した。その後、「カルミナ・ブラーナ」のバレエ公演では、神奈川フィル、東京シティ・フィルも指揮している。2005年には、同曲を含むオルフの「トリオンフィ」3部作（4台のピアノと打楽器）を指揮している。明治学院大学文学部芸術学科教授。著書に「往還する視線 14-17世紀ヨーロッパ絵画における視線の現象学」（近代文芸社）、「振っても書いてもしょせん酔狂」（水響興満新報社）がある。



大木 麻理

オルガン

東京藝術大学、同大学院修了。第3回ブクステフーデ国際オルガンコンクール日本人初優勝、第65回「プラハの春」国際音楽コンクールオルガン部門第3位、ほか国内外で多数受賞。これまでリリースしたCDアルバム全てがレコード芸術特選盤に選出され、オルガンで参加した「Live from MUZA」は、第58回レコード・アカデミー賞（録音）を受賞した。豊かな音楽性と高度なテクニック、丁寧な音色作りは各所で高い評価を受けている。ミュゼ川崎シンフォニーホールオルガニスト。
<http://mariohki.jp/>



水本 紗恵子

映像

美術家・イラストレーター・デザイナー。東京藝術大学美術学部先端芸術表現学科卒業、同大学院修了。現在、同大学演奏芸術センター教育研究助手として舞台芸術の企画制作に関わる傍ら、フリーランスとして、イラストレーション・舞台演出映像や小道具の制作・グラフィックデザイン・子供向けワークショップ等を手がけている。東京藝大アートフェス2021にて、個人・グループの2作品で優秀賞受賞。

PROGRAM NOTES

ルロイ・アンダーソン クリスマス・フェスティバル

ルロイ・アンダーソン(1908~1975)はやはり偉大な作曲家だったと言わざるを得ません。耳にした者がほんの数分で幸せな気分になれる、このような作品をも手掛けているのですから。



Leroy Anderson

アンダーソンは米国マサチューセッツ州に生まれ、幼いころから音楽に囲まれた環境で育ちました。ハーバード大学でスカンジナビア語と独語を専攻しながら、作曲の勉強を続けていたというのですから、学問と音楽双方の才能を発揮した多彩な人物だったということが伺えます。「そりすべり」や「シンコペイテッド・クロック」、「タイプライター」など、

大衆の心をうまくキャッチした、描写的で軽快な作品を生み出したのは、作曲家として一辺倒ではなく、世の中の流れもうまく捉えることのできたクレバーな側面があったからこそなのかもしれません。

ところで、こうしたプログラムノートの多くは来場いただいたお客様に読んでいただくものであるにもかかわらず、専門用語が非常に多く、書いている本人と一部のクラシックオタク(通称:クラオタ)が内輪ノリで笑っているようで大変いけません。「そりすべり? シンコペイテッド・クロック? 曲名だけ言われてもわからないよ。これだからクラシックの演奏会は・・・」となってしまうて当然です。

しかし、アンダーソンの作品についてはこの文面だけで「この曲です!」と端的に示すことができます。「そりすべり」は12月のセブンイレブン店内で執拗にリピート再生されていますし、「シンコペイテッド・クロック」はイオンの3時のクリーニングタイムで全曲が再生されています。どうでしょう?むしろ良くこの曲を知っていて、楽しく口ずさむことができるのはブルックナー好きのバリバリのクラオタではなく、日常生活の中でセブンやイオンに何気なく買い物に行く方々なのではないでしょうか。クラシック音楽を「崇高であり、大衆にとっては分かりにくいもの」から「大衆の大切な日常生活の一部」へと昇華させたアンダーソンの功績は計り知れません。

さて、「クリスマス・フェスティバル(1950)」もそんなアンダーソンの功績の一つです。自身がフルで作曲した作品ではなく、あくまで「名前は知らないけれどクリスマスによく演奏されるあの曲!」を編曲してメドレーとしたものですが、クリスマス気分を十二分に味わえる、これほどまでにコスト・パフォーマンスが良い作品は、他に存在しません。8つの曲が以下の順で演奏されます。☆の曲にはかわいらしい児童合唱も加わりますので、ぜひとも歌詞にも耳を傾けてみてください。

1. Joy to the World!(もろびとこぞりて)

ヘンデル作曲「メサイア」の一節をもとにして作られたクリスマス・キャロルで華やかに幕を開けます。

☆2. Deck the hall with boughs of holly(ひいらぎかざろう)
ウェールズ民謡のクリスマス・キャロルがもとになっています。木管楽器によるかわいらしい音色をお楽しみください。

☆3. God Rest You Merry, Gentlemen(よのひとわするな)
1や2と比べて落ち着いた、優しく包み込むようなメロディが印象的です。合唱の祈るような歌い方にも注目です。

4. Good King Wenceslas(ウェンセスラスはよい王様)

こちらもイギリス発祥のクリスマス・キャロルです。弦楽器による軽快な主題の提示ののち、木管楽器が掛け合いで楽しさを演出します。

☆5. Hark! the Herald Angels Sing(あめにはさかえ)

メロディは「結婚行進曲」で有名なメンデルスゾーン作曲のカンタータが使われています。金管楽器による優しいコーラルが響き渡ります。

☆6. Silent night(きよしこの夜)

オーストリアのオルガン奏者フランツ・グルーバーが作曲した日本でも大変有名なクリスマスソングです。弦楽合奏と合唱による神秘的な世界をお楽しみください。

☆7. Jingle Bells(ジングル・ベル)※

鈴が鳴り出したらジングル・ベルの始まりです。お祭りも佳境に差し掛かろうというところでしょうか。

※「お祭り大好き!水星交響楽団!」では更なるお祭り感を盛大に演出するため、鈴奏者の数を通常の5倍にしてお届けいたします。

☆8. Adeste Fideles(かみのみこ)

ラストは中世のイングランドに端を発する讃美歌で華やかに幕を閉じます。

いかがだったでしょうか?「そりすべり」や「シンコペイテッド・クロック」のように「聞いたことはあるけど名前は知らなかった」という曲ばかりではなかったでしょうか?

普段、我々のようなアマチュアオケマンは、一般ウケしないクラシック音楽を自分たちが楽しむためだけに弾いているような節があります。水星交響楽団もその類に漏れず、練習をして、演奏会をして、飲んで・・・を延々と繰り返し、これまで定期演奏会は63回を数えました。その間、新しいクラシック音楽ファンを呼び込もうという考えがあったかどうかについては疑問しいところもあるかもしれません。

しかし、今回の第64回の定期演奏会で「実はオーケストラって、クラシックってそんなに敷居が高いものじゃなかったね」、「私たちの日常や節目に必ずあって、実はかっこいいし、楽しいじゃん!」なんて感じていただける方が一人でもいらっしやれば、そしてその結果、水星交響楽団のファンが増えるのだとしたら、この上ない幸せです。

そして冒頭にある通り、それをたった一作品で感じさせてくれるアンダーソンはやはり偉大だったと言わざるを得ないのです。

(大山 司)

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー バレエ音楽「くるみ割り人形」

2022年のクリスマスに「くるみ割り人形」を心ゆくまで
お楽しみください！

この曲の序奏が始まりましたら、ぜひ、この2022年を、大切な人と過ごしたこの一年間を振り返りながら聴いていただければと思います。ちょっと辛かった出来事や奇想天外な思い出もあるかもしれませんが、そんなこんなをみんなで乗り越えて、この年末、このクリスマスと一緒に迎えられることを共に喜びあいましょう。特に第2幕では、豪華な舞台上のめくるめく豪華絢爛な踊りを楽しみながら、大切な人に素敵なプレゼントを贈る気持ちをこのホールで一緒に分かち合うのはいかがでしょうか。

本作は19世紀の末葉、帝政ロシアの首都サンクトペテルブルクの帝室バレエ劇場の支配人、当代の著名振付師であるマリウス・プティパ、そしてチャイコフスキーの三人が組むことで誕生しました。残念ながら、三人の間の意思疎通が十分でなかったこともあり、劇と音楽と振り付けのバランスがネックとなり初演時の評判は芳しくありませんでした(ただし音楽は好評だったらしい!)。今日のように三大バレエの一つとして本作が名声を得るまでには、多くの振付師や演出家の手にかかり創意工夫を凝らした上演が重ねられてきた経緯があります。

つまり、「くるみ割り人形」はそれだけ解釈、筋書きの付け方や楽しみ方が自由な作品なのです。今日はオーケストラと合唱のみ演奏会形式で、水本紗恵子さんが制作された愛らしい映像と共に皆さまにお届けします。バレエが無い分、楽しみ方の自由度はいやまに増すのではないかと思います。

チャイコフスキーの魅惑的なメロディー、誰もが聴いて心浮き立つワルツの数々、イタズラ好きでお茶目な彼が用意したアツと驚く仕掛け、豪華絢爛でコスモポリタンなダンスホール。皆様それぞれ、来し方への思いを重ねながら楽しんでいただければ幸いです。

あらすじ

〈第1幕前半〉

今日はクリスマス、市議会議長の邸宅の広間では大勢を招いたパーティーが催される。議長の子供にはドロッセルマイヤー議員よりくるみ割り人形がプレゼントされる。兄フランツがイタズラで壊した人形を、妹クララは優しくいたわる。

〈第1幕後半〉

パーティーもお開きした真夜中、クララは人形の様子が気になり広間に忍びこむ。そこに何故か老ドロッセルマイヤー氏とネズミの群れが現われ、不思議とクララは小人の大きさに縮んでしまう。クララはくるみ割り人形の正体がお菓子の国の王子であることを知り、王子と共にネズミ王と戦い打ち倒す。二人は雪の夜を駆けてお菓子の国に向か

〈第2幕〉

お菓子の国では、女王がクララを褒め称え、王子を助けた御礼に歓迎の饗宴を開く。国中の人々が踊り、クララに目一杯の祝福を贈る。「花のワルツ」「金平糖の精の踊り」に続き、クライマックスでは全員が明るく賑やかに踊る!王冠を賜ったクララは、そのあまりの幸福にうっとり…。

チャイコフスキーの略歴

「くるみ割り人形」が作曲された晩年を中心に、彼の人生を概観してみました。本作が作曲された頃、作曲家として円熟期に立っていたチャイコフスキーは欧米中で大人気を博しています。そしてまた、長年のパトロンであったメック夫人との訣別や、愛する妹との死別を経た時期でもありました。



Peter Ilyich Tchaikovsky

- 1840年 ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー、ウラル西部ヴォトキンスクで、地方監督官イリヤの次男として誕生
- 1850年 ペテルブルク法律学校予備クラス入学。初めて格林カのオペラを見る
- 1862年 ペテルブルク音楽院入学。翌年法務省を辞職して職業音楽家の道へ
- 1866年 モスクワ音楽教室の講師になる。交響曲第1番完成
- 1875年 ピアノ協奏曲第1番完成。翌年バレエ「白鳥の湖」完成
- 1878年 交響曲第4番を完成し、メック夫人に献呈。モスクワ音楽院を退職
- 1888年 皇帝アレクサンドル3世より年金支給の発表あり。交響曲第5番完成
- 1890年 バレエ「眠りの森の美女」初演。バレエ興業の大成功を得て、帝室劇場の総裁が次シーズンの新作バレエとして「くるみ割り人形物語」を題材に選び、チャイコフスキーに作曲を依頼。メック夫人より援助打ち切りの通告を受ける
- 1891年 ニューヨーク・カーネギーホールの柿落としの主賓として渡米。旅行中に妹アレクサンドラの訃報に触れる。新作バレエにチェレスタ、おもちゃのラッパやガラガラを使う計画を立てる
- 1892年 ハンブルクでオペラ「エフゲニ・オネーゲン」ドイツ初演(指揮はグスタフ・マーラー)。バレエ「くるみ割り人形」完成
- 1893年 交響曲第6番完成。10月21日にコレラ発病。同月25日に死去

Diversity and Inclusion

(社会の中で、互いの多様な生き方を認め合い受け入れ合うこと)

「人間、誰しも自分自身にマイノリティな部分がある。」これは、トランスジェンダー活動家である杉山文野さん(NPO法人東京レインボープライド共同代表理事)の言葉です。チャイコフスキーにとって、自分のマイノリティな部分が世間に受け入れられなかったことは、その人生に長年困難をもたらしたようです。彼は自身の性的嗜好に対する世間の噂が自分の人生キャリアの妨げとなり、また近しい家族や友人に迷惑をかけることに苦悩しました。弟モデーストへの手紙でも次のように自分の思いを訴えています。「自分には本質的に何の罪もないのに、自分が哀れみを受け、許されていると思うことが、僕にとって辛いと思うかい!」こう悩みながらも、チャイコフスキーは37歳の時アントニーナ・イヴァーノヴナとの結婚を決意します。周囲は家庭生活が彼の才能をダメにすることを恐れ結婚に反対し、実際、チャイコフスキーは結婚後の同居生活に耐えられず、一か月経たずに逃げ出してウクライナの妹の嫁ぎ先に向かい、以後、アントニーナとは別居状態となりました。





本作も含めチャイコフスキーの楽曲には、大空に轟きわたるフォルテシシモ(fff)の慟哭や、ピアノシシモのフレーズに尽きぬ想いが込められているのがよく見られます。そうしたシーンの数々が私達を惹きつけてやまないのも、チャイコフスキーが孤独に溢れ泣き苦しみながらも必死で自分らしく生きようとした、その姿が楽曲に満ち満ちて感動を呼ぶのかもしれない。

チャイコフスキーとウクライナ

今この瞬間も困難な生活を強いられ、親しい人との別れに苦しめられている人々にとって一日も早く平安が訪れることを願い祈りつつ、ウクライナの土地や文化とチャイコフスキーとの深い縁をご紹介します。

【Family History】

ピョートルの曾祖父フォードルは、現在のウクライナのポルターヴァ州にあるチャーイカという集落にいたコサック兵であったという。フォードル・チャイコフスキーとは「チャーイカのフォードル」という意味。

【第二の故郷】

ピョートルの妹、アレクサンドラの嫁ぎ先のダヴィドフ家は、チェルカシ州カミヤンカに領地を持つ。ピョートルは幾度もカミヤンカで休暇を過ごし、ここで聞いた現地の民謡は、弦楽四重奏曲「アンダンテ・カンタービレ」や交響曲第2番を始め、多くの作品で大切に扱われている。

【豪邸で缶詰め】

ピョートルのパトロナス、メック夫人は、ビーンニツヤ州ブライリフに図書館も四頭馬車もある宮殿のような豪邸を持ち、ピョートルは度々そこに長逗留し、静謐で贅沢な環境で作曲に専念。ヴァイオリン小品集「なつかしい土地の思い出」などを当地で作曲。

【トレパークとホパーク】

ホパーク＝コサックダンスはウクライナの民族舞踊であり、帝政ロシア時代の支配下では踊ることが禁止されていた。一方トレパークは大麥糖の飴菓子のこと(諸説あり)。第2幕のディベルティスマンの4曲目のタイトル、トレパークがホパークと語感が似ているように思えることや、ホパークが禁止されていたことに、何かピョートルの真意が隠されているかも？

<参考文献>

- 「新チャイコフスキー考」(森田稔)
- 「チャイコフキ(カラー版作曲家の生涯)」(森田稔)
- DECCA CD チャイコフスキー:
- バレエ「くるみ割り人形」全曲(曲目解説 小倉重夫)

(長屋 裕大)



「くるみ割り人形」を もう少し深くわかるために

バレエ「くるみ割り人形」は、ロシア人チャイコフスキーの作品で、初演もサンクトペテルブルクで行われましたが、台本は、プロイセン人の作家E.T.A.ホフマンによる童話をフランス人作家アレクサンドル・デュマ(大デュマ)がフランス語訳したものをベースに作られました。物語の舞台は「ドイツ」(登場人物の名前もドイツ系)ですが、文化的背景はドイツをはじめとした19世紀前半のヨーロッパ各地の状況を反映したものとなっています。

そこでこのコーナーでは、それらの「文化的背景」のうち、私達にとって馴染みの薄い(薄そうなもの)について2つほど捕捉して、物語への理解を補っていただこうと思います。

「おじいさんの踊り」

第1幕の半ばあたり、グロスマイヤー家のパーティーの終わりの場面で登場する「おじいさんの踊り(Grossvaterntanz)」。少なくとも日本人の私達にとって耳馴染みのある言葉ではなく、その登場はあまりに唐突に思えます。

これは17世紀に主にドイツ語圏で踊られていた舞踊と結びついた民謡で、この曲は慣習的に結婚式の祝宴の終わりに踊られていたとされます。この部分の3/8拍子の音楽は「おじいさんの踊り」の音楽のほぼ忠実な引用です。

ちなみに、チャイコフスキー以前に、シューマンが「パピヨン Op.2」や「謝肉祭 Op.9」の終結部に全く同じ音楽を引用しています。

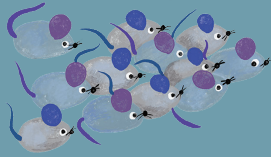
シューマンが直接的に影響をおよぼしたか否かについては断言できませんが、少なくともチャイコフスキーが「クリスマスパーティーの終わり」を表現するための音楽として「おじいさんの踊り」を用いたのには上記のような背景があるものと思われる。

「ジンジャーブレッドマン」

第1幕の後半、ネズミとの戦闘でお菓子の国の兵隊として登場する「ジンジャーブレッドマン」。生姜を練り込んだ生地アイシングのシンプルな線で目や口で顔が描かれた人型のクッキーで、クリスマスツリーのオーナメントとして飾られることも多い「お菓子」です。

こうした生姜を練り込んだお菓子は9世紀ごろまでの歴史を遡ることができると思いますが、16世紀のイギリス国王ヘンリー8世がペスト予防のためにの摂取を推奨したことから、彼の「顔」をその表面に描くクッキーがイギリスのみならずヨーロッパ各地に広まりました。

(櫻井 統)



合唱



にしみたか学園三鷹市立井口小学校合唱団

2年生から6年生の歌が好きなメンバーが集まって練習しています。これまで、マーラー作曲交響曲第3番、第8番、合唱組曲「あらしのよるに」などのコンサートに出演。また、近隣の施設に訪問し、手作りのプレゼントをもって、歌声とともにお届けするなど、音楽を通して地域との交流をしています。

指導者:長谷川 佳子 / アシスタント:一柳 優里愛、長谷川 愛

青木 陽士
天田 智咲
天野 麻陽
五十嵐 葵子
市丸 恵柳
伊藤 一葉
井上 知彦
内田 紬希
大野 凧咲
加藤 桃子

金岡 一渚
茅野 智沙都
北川 彩友
喜多 眞梨菜
木村 修輔
熊谷 優歌
熊代 実織
児玉 柚香
佐々木 結衣
定光 颯太

定光 千花
椎木 優空
新堂 絢乃
杉山 和佳菜
鈴木 梨心
住江 星空
高橋 柚奈
高見 倫太朗
宅和 奈南
永木 彩心

中島 杏
永島 結稀
中田 文
橋爪 由菜
橋本 亮佑
畑田 叶乃
平岡 仁菜
円尾 杏菜
水上 瑚菜
宮崎 良咲

連 太郎
目加田 景
モール・ココ
山形 珠月
吉富 江梨衣
渡邊 潮音
渡邊 陽翔

みたか WEST合唱団

三鷹市に在住、在勤の歌の好きなメンバーが集まって練習しています。今回は、高校生が中心に集まりました。合唱団員募集中です。

指導者:長谷川 佳子

ウッドワード 万里

金古 愛未

小寺 智皓

杉山 優菜

渡邊 葉奈

渡邊 有璃子

オーケストラとうたう 杜の歌・こども合唱団

歌の好きな子どもたちが集まって熱い指導の下、練習しています。オーケストラや、大人の合唱団と共に演奏する楽曲を中心に演奏する合唱団としての活動の他に、年1回、団員一人ひとりが各々の課題曲に取り組む「ひとりひとりの独唱発表会」を行っています。上田真樹作曲合唱組曲「あらしのよるに」は、震災復興支援として会津若松での現地合唱団との共演をはじめ、これまでたびたび演奏をしてきました。コロナ禍では、リモートと対面練習を組み合わせる練習を継続し、昨年5月のロシア音楽フェスティバルでは、ロシアの児童合唱団と録画による共演も果たしました。

指導者:津上 佳子、渡部 智也 / ピアノ伴奏者:越前 佳織

風呂 愛明奈

浅井 文華

長谷川 愛

チラシを持ち帰らずとも、今後の演奏会情報が
スマホで確認できるようになりました！



演奏会の概要



演奏曲の試聴

アクセスはこちらから！



チラシ画像



プロモーション動画



楽団からの
メッセージ



楽団のWebサイト
SNS

スマホのカメラを起動し、こちらのQR
コードにカメラをかざしてください

Powered by



Orchid

アンケートのお願い

本演奏会では新型コロナウイルス感染対策の観点から、アンケート用紙の配布・回収は行いません。

演奏会終了後に今回の演奏会の感想をお聞かせください。

右に記載しているURL、もしくはQRコードからアンケートフォームにアクセスしてご記入ください。

PCなどから



スマートフォンなどから



※演奏中は携帯電話、スマートフォンの電源をお切りください。アンケートは休憩中や演奏会後にご記入ください。



水星交響楽団



◆常任指揮者
齊藤 栄一

◆コンサートマスター
森 勇人

◆ファーストヴァイオリン

大森 華希
岡田 莉沙
織井 奈津乃
片山 なつみ
櫻田 泰斗
笹川 萌
清水 花凜
鈴木 紗羅
高原 苑
滝澤 蘭
田村 奈津子
土屋 和隆
永井 翠
中野 宏亮
宮川 妙子
村部 一星

◆セカンドヴァイオリン

池田 優太
伊東 陽子
遠藤 颯
片岡 拓巳
近藤 和
鈴木 ひかり

鈴木 牧
◎砂川 湧
高杉 暁音
高橋 熙
富井 一夫
西沢 洋
前澤 郁弥
盛田 明雅
渡部 友賀

◆ヴィオラ
有井 晶
大澤 愛紬
岡崎 碧
小田中 里奈子

◎古宇田 凱
土谷 夏仁
西田 実
前田 あゆ美
牧原 正典
三上 さやか
米嶋 龍昌

◆チェロ
◎金澤 直人
北岡 正英
首藤 ひかり
鈴木 皇太郎
橘 温子
原田 大成
日吉 実緒

松本 紗夜
能岡 雅人

◆コントラバス

◎石附 鈴之介
上野 未夢
大西 功
片山 朔杜
刈田 淳司
北村 奨也
長屋 裕大
花田 信彦
米山 宏祐

◆フルート

大山 司
斎藤 美唯
◎中澤 高師
本田 洋二
村上 芳明

◆オーボエ

石井 英久
菅野 勇斗
黒川 達郎
寺田 吉太郎
◎野口 秀樹

◆クラリネット

市村 広奈
清水 樹土

◎馬場園 真吾
横地 篤志

◆ファゴット

伊藤 綾香
薄井 潤一郎
◎小田中 優介

◆サクソフォン

川浪 玄太
北野 真矢子
寺山 由希子

◆ホルン

伊集院 正宗
大高 直哉
大山 美佳
岡本 真哉
◎島 啓
清水 颯太
田村 和俊

◆トランペット

浅田 健二
家田 恭介
◎岩瀬 世彦
金子 恭江
神山 優美

◆トロンボーン

石井 志歩

小林 威之
◎佐藤 幸宏

◆チューバ

植松 隆治

◆パーカッション

安西 理玖
奥山 千穂
鈴木 日向子
高橋 淳
◎椿 康太郎
山本 勲

◆スレイベル

市村 広奈
大山 司
島 啓
馬場園 真吾

◆ハープ

東森 真紀子
矢澤 みさ子

◆オルガン

大木 麻理

◆チェレスタ

山形 リサ

◎=パートリーダー

本演奏会でご指導いただいたトレーナーの先生方(敬称略)

鈴木 睦、林 憲秀、古野 淳、前田 正彦、三橋 敦、柳澤 崇史、山田 裕治

水星交響楽団運営委員会

運営委員長: 植松 隆治

コンサートマスター: 森 勇人

弦楽器インスペクター: 刈田 淳司

木管楽器インスペクター: 横地 篤志

金管楽器インスペクター: 佐藤 幸宏

打楽器インスペクター: 山本 勲

選曲委員長: 大山 司

楽譜: 伊集院 正宗、野口 秀樹、宮川 雅裕

ステージマネージャー: 犬竹 守、櫻井 統

文芸: 櫻井 統

会計: 浅田 健二、黒川 夏実、砂川 湧

運搬: 刈田 淳司

チケット: 古宇田 凱、清水 樹土、砂川 湧

広報・受付: 市村 広奈、岡本 真哉、鈴木 海里

鈴木 牧、土屋 和隆、東海林 拓人

プログラム制作: 伊集院 正宗、伊東 陽子

グッズ制作: 石井 志歩、神山 優美、清水 花凜

レセプション: 織井 奈津乃、永井 翠

チラシ・プログラムデザイン: 水本 紗恵子

～次回演奏会のご案内～

水星交響楽団 第65回定期演奏会

2023/5/21(日) 13:30開演(予定) 12:30開場

すみだトリフォニーホール大ホール

指揮 齊藤 栄一

◇ブリテン ヴァイオリン協奏曲(ヴァイオリン独奏: 西江 辰郎) ◇マーラー 交響曲第5番

水星交響楽団ホームページ <https://suikyo.jp>

問い合わせ info@suikyo.jp